北アメリカ州

名前

問1　アメリカ合衆国では、広大な農地で大型機械を駆使し、極めて少ない労働力で大量の作物を生産する効率的な農業経営が行われています。一人当たりの生産性が非常に高く、世界中に農産物を供給する拠点となっているこのような農業の形態を何といいますか。（2021年 高知県公立入試 類似）

1. 焼畑農業
2. 企業的農業
3. 集約的稲作
4. 自給的農業

問2　2000年時点の日本、アメリカ合衆国、イギリスにおける発電電力量の構成を比較したとき、自国に豊富な資源を持つ背景から、これら三カ国の中で発電に占める石炭の割合が最も高かった国を選びなさい。（2023年 愛媛県公立入試 類似）

1. アメリカ合衆国
2. 日本
3. イギリス
4. フランス

問3　アメリカ合衆国のサンフランシスコ郊外に位置し、多くの情報通信技術（ICT）関連企業や研究機関が集積している先端技術産業の拠点を何と呼びますか。（2025年 徳島県公立入試 類似）

1. サンベルト
2. ピアモント
3. ラストベルト
4. シリコンバレー

問4　アメリカ合衆国の中央部に位置する中央平原からグレートプレーンズにかけての地域では、広大な土地を活用した大規模な農業が行われています。この地域のうち、中央部の南北に伸びる地帯でトウモロコシが、そのさらに北側や南側の地域で小麦が主に栽培されています。このように、それぞれの地域の気候や土壌などの自然条件に最も適した農作物を栽培する農業方式を何といいますか。（2023年 北海道公立入試 類似）

1. モノカルチャー
2. 適地適作
3. 地産地消
4. 二毛作

問5　北アメリカ大陸の北部に位置するカナダについて、主要7カ国首脳会議（G7サミット）の開催都市の一つにもなったことがある、この国の首都として正しいものはどれか。（2024年 大阪府公立入試 類似）

1. トロント
2. モントリオール
3. バンクーバー
4. オタワ

問6　北アメリカ大陸の西海岸、サンフランシスコ周辺の産業的特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2024年 和歌山県公立入試 類似）

1. シリコンバレーと呼ばれ、情報通信技術（ICT）に関わる最先端企業が集積している。
2. サンベルトと呼ばれ、北緯37度以南の温暖な気候を利用して宇宙産業が発展している。
3. 五大湖周辺の鉄鉱石を利用した、鉄鋼業や自動車産業が古くから発展している。
4. 広大な平原を利用して、企業的牧畜や小麦の生産が盛んに行われている。

問7　北米大陸西海岸のカリフォルニア州付近は、大学や企業が集まる先端技術の拠点として知られています。この地域の産業発展を支えた仕組みや背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2026年 広島県公立入試 類似）

1. 広大な農地を活かした大規模な灌漑施設が整備され、綿花や小麦などの農産物を加工する食品工業が中心となったこと。
2. 大西洋を挟んだヨーロッパ諸国との貿易において、地理的に最も近い位置にあり、大規模な貿易港が古くから発達していたこと。
3. 五大湖周辺で産出される鉄鉱石と石炭を効率よく輸送できる水運が整備され、重工業の原材料確保が容易であったこと。
4. 近隣の有力大学から供給される高度な専門知識を持つ人材や、研究成果をビジネスに活用するベンチャーキャピタルが充実していたこと。

問8　アメリカの米生産に関する統計では、1ヘクタール当たりの収穫量が6.69トンと高く、農民一人当たりの生産量も多い上、世界最大の米輸出量を記録しています。このように、アメリカが国際的な競争力を持つ農業を実現できている理由として、背景にある仕組みを正しく説明しているものはどれですか。（2018年 静岡県公立入試 類似）

1. 一戸当たりの耕地面積をあえて小さく制限し、家族経営による丁寧な手作業を重視しているため。
2. 気候区分に合わせた適地適作を行い、広大な土地で機械化による大規模な生産を行っているため。
3. 国内の食料自給率が低いため、政府が補助金を投入して輸出専用の農作物を強制的に作らせているため。
4. 熱帯雨林を切り開いたプランテーションにおいて、安価な労働力を大量に雇用しているため。

問9　アメリカ合衆国におけるヒスパニックの人々の特徴と、社会への影響について説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 群馬県公立入試 類似）

1. メキシコなどの中南米諸国から移り住んだ人々で、スペイン語を話す人口の増加により、二か国語併記の案内板が増えるなどの変化が見られる。
2. アメリカ大陸に古くから居住していた先住民族のことで、現在は各地の保留地で独自の文化や言語を継承しながら生活している。
3. 19世紀後半に鉄道建設の労働力として中国や日本から渡った人々のことで、現在はカリフォルニア州などの西海岸に多く居住している。
4. かつてアフリカから奴隷として連れてこられた人々を先祖に持ち、南部の農業地帯から北部の工業都市へと移動した歴史を持つ。

問10　世界の地域協力組織を分類したデータにおいて、北アメリカ州のアメリカ合衆国、カナダ、メキシコの3か国が関税を撤廃するなどして貿易を活発にするために結んでいる協定を何といいますか。（2023年 千葉県公立入試 類似）

1. ASEAN（東南アジア諸国連合）
2. APEC（アジア太平洋経済協力）
3. USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）
4. MERCOSUR（南米共同市場）

問11　アメリカ合衆国とインドのICT産業における協力関係について、その地理的背景を説明した文として正しいものはどれですか。（2019年 大分県公立入試 類似）

1. 地球の自転に伴う経度の差を利用して、24時間体制の開発ネットワークを構築している。
2. 同じ経線上に位置しているため、時差による混乱がなくスムーズな情報伝達が可能である。
3. 極地に近い高緯度地域同士の連携により、通信衛星を通じたデータ送信が最短距離で行える。
4. 赤道を挟んで南北に位置する関係を利用し、季節の違いによる電力消費の差を調整している。

問12　メキシコの文化や歴史的背景について述べた次の説明のうち、産業と歴史の関わりを踏まえたものとして最も適切なものはどれか。（2023年 滋賀県公立入試 類似）

1. 広大な熱帯雨林を活用したコーヒー栽培が盛んで、かつてポルトガルの植民地であった影響から、現在もポルトガル語が話されている。
2. 16世紀にスペインの植民地となり、銀の採掘が盛んに行われた歴史から、現在も世界有数の銀の産出国であり、キリスト教徒の割合が高い。
3. 南半球に位置し、かつてイギリスの植民地であったため、キリスト教の中でもプロテスタントを信仰する住民が圧倒的に多い。
4. アジアと北米を結ぶ中継貿易で発展し、スペインの統治時代に導入された稲作技術により、現在は世界有数の米の輸出国となっている。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 企業的農業	アメリカ合衆国の農業は、まるで工場のように大規模な資本を投じ、機械化によって効率的に生産を行うことから「企業的農業」と呼ばれます。広大な国土と地形を活かし、特定の地域で気候に適した作物だけを大量に栽培する「適地適作」とあわせて、世界最大の農産物輸出国の基盤となっています。
問2	答え 1 アメリカ合衆国	アメリカ合衆国は、アパラチア山脈周辺などで石炭が豊富に採掘されるため、2000年時点では発電電力量の約半分を石炭火力発電に依存していました。一方、日本は石炭、天然ガス、原子力を組み合わせており、イギリスでは北海油田の天然ガスを利用した発電への転換が進んでいたため、アメリカ合衆国が最も高い割合となっていました。
問3	答え 4 シリコンバレー	サンフランシスコの南に位置するシリコンバレーには、多くのICT関連企業が集まっています。北緯37度以南の温暖な地域であるサンベルトの一部としても知られています。
問4	答え 2 適地適作	アメリカ合衆国では、降水量や気温などの自然環境に合わせて、特定の農作物を大規模に栽培する体制が整えられています。トウモロコシが生産される「コーンベルト」や、その南北に広がる「小麦地帯」のように、土地の個性を最大限に活かした効率的な生産を行う仕組みが、広大な国土を持つ国々における農業の特徴となっています。
問5	答え 4 オタワ	カナダ最大の都市であるトロントや、太平洋側の港湾都市であるバンクーバー、フランス文化の影響が強いモントリオールなどは知名度が高いが、連邦政府が置かれている政治の中心地はオタワである。入試では、経済の中心都市と首都が異なる国の組み合わせとしてよく問われるポイントである。
問6	答え 1 シリコンバレーと呼ばれ、情報通信技術（ICT）に関わる最先端企業が集積している。	サンフランシスコ南部のシリコンバレーは、半導体の主原料であるシリコンにちなんで名付けられました。一方で、サンベルトはアメリカ南部全域の成長産業地帯を指し、五大湖周辺はかつて重工業で栄えた「スノーベルト（ラストベルト）」と呼ばれる地域であるため、地理的な位置や産業の内容が異なります。
問7	答え 4 近隣の有力大学から供給される高度な専門知識を持つ人材や、研究成果をビジネスに活用するベンチャーキャピタルが充実していたこと。	シリコンバレーが発展した大きな理由は、スタンフォード大学などの有力大学から輩出される優秀なエンジニアや起業家が豊富だったことにあります。また、新しい技術やアイデアに対して投資を行うベンチャーキャピタルが多数存在したことで、スタートアップ企業が成長しやすい環境（エコシステム）が整い、世界的なICT関連企業が次々と誕生しました。
問8	答え 2 気候区分に合わせた適地適作を行い、広大な土地で機械化による大規模な生産を行っているため。	アメリカでは、広大な国土の気候や土壌に適した農作物を特定の地域で集中して生産する「適地適作」が行われています。これに加えて、一戸当たりの広大な耕地面積を大型機械で効率的に耕作することで、高い生産性と価格競争力を確保し、世界市場への大量輸出を可能にしています。
問9	答え 1 メキシコなどの中南米諸国から移り住んだ人々で、スペイン語を話す人口の増加により、二か国語併記の案内板が増えるなどの変化が見られる。	ヒスパニックは地続きのメキシコなどから仕事を求めて移住するケースが多く、彼らの増加によって、アメリカ国内では英語だけでなくスペイン語も広く使われるようになっています。特に南部の州ではスペイン語による放送や標識が一般化しており、ヒスパニック独自の食文化や音楽もアメリカ社会に深く浸透しています。
問10	答え 3 USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）	北アメリカに位置する3か国は、互いの経済的な結びつきを強めるために自由貿易協定を締結しています。長らくNAFTA（北米自由貿易協定）として知られていましたが、デジタル貿易のルール化や労働環境の改善などを盛り込んだ新しい内容に更新され、現在はUSMCAという名称で運用されています。
問11	答え 1 地球の自転に伴う経度の差を利用して、24時間体制の開発ネットワークを構築している。	地球は15度の経度差ごとに1時間の時差が生じますが、アメリカとインドのように経度が大きく離れた地域同士では、この時差が業務上のメリットとして機能します。アメリカで開発がストップする夜間の時間を、ちょうど日中を迎えるインドでの作業時間に充てることで、開発期間の短縮や24時間の保守管理体制を実現しています。これは、グローバル化が進む現代における、地理的条件を逆手に取った産業連携の代表例です。
問12	答え 2 16世紀にスペインの植民地となり、銀の採掘が盛んに行われた歴史から、現在も世界有数の銀の産出国であり、キリスト教徒の割合が高い。	メキシコは北米に位置し、アステカ帝国がスペインによって征服されて以降、植民地として支配された歴史を持ちます。この時期に銀山が開発され、本国スペインへ大量の銀が運ばれました。この歴史的な経緯が、現在の銀の生産量や、宗教・言語といった文化的な特色に直接つながっています。ブラジル（ポルトガル領）やイギリス領の歴史を持つ国々とは、言語や宗教の広まり方が異なります。